

「JF にほんご eラーニング みなと」の構成と 今後の展望

信岡麻理・和栗夏海・伊藤秀明・山下悠貴乃・川嶋恵子・三浦多佳史

1. はじめに

国際交流基金関西国際センター（以下、「関西国際センター」）では、海外の日本語学習者の継続学習や自律学習を支援するため、これまで日本語学習サイトやスマートフォン用アプリを開発してきた。今般、さらに日本語学習の機会を提供するため、日本語学習のためのプラットフォーム「JF にほんご eラーニング みなと」（以下、「みなと」）(<https://minato-jf.jp>)を開発し、2016年7月27日に一般公開した。

「みなと」は学習管理システム（LMS）を備えた日本語学習プラットフォームである。ユーザー登録をすることで、「みなと」上で開講される日本語オンラインコースを受講することができるとともに、コミュニティを活用して自分と共通の趣味を持つ世界中の仲間と交流ができるようになっている。そのほか、日本語学習への幅広い興味・関心に応えるため、「みなと」内に国際交流基金がこれまでに開発を行った日本語学習サイトなどの情報を提供する専用ページも設けている。

本稿では、「みなと」の構成および今後の展望を報告する。

2. 「みなと」のコンセプト

海外の日本語教育機関は都市部に集中することが多く、全地域的な日本語教育を考えた場合に、地理的・時間的な制約から日本語学習に興味はあっても学習を開始、継続することが難しい学習者が相当数いることは想像に難くない。また昨今、日本語学習を始めるきっかけや目的、日本に対する興味・関心は多岐に渡っており（国際交流基金 2013）、誰もが同じ学習目標に向かい、同一の教材を用いて同じペースで学習を進めるといった選択肢だけでは、学習者の個々のニーズに十分に応えることは難しい状況にある。そこで関西国際センターでは、これまでに開発し



図1 「みなと」のトップページ

たコンテンツを効果的に活用しながら、地理的・時間的な制約がある学習者に対して、インターネット環境や機器さえあれば誰でもユーザー登録ができ、自分に合ったコースを自由に選択できる日本語学習のためのプラットフォームを開発することにした。また、「みなと」はユーザーの好奇心や向上心を刺激し、人生における長い学びの中で日本語学習の一つの拠点となることを目指していることから、「みなと」のメインコンセプトを「また来たくなるeラーニング」とすることとした。

3. 「みなと」の構成

「みなと」は大きく分けて、「日本語コース」、「コミュニティ」、「日本語学習サイト&アプリ」の3つから構成されている。本節では、この3つの詳細について述べる。

3.1 日本語コース

「みなと」の日本語コースは、ユーザー登録をすれば誰でも受講が可能である。コース一覧から自分に合うコースを自由に選ぶことができ、複数のコースを同時に学習することができる。また、ログイン後のマイページ画面では、各コースの学習の進捗状況が確認でき、過去に受講したコースの学習を振り返ることもできる。

3.1.1 日本語コースの特徴

日本語コースには①多様なコースの開講、②学びの選択、③インタラクティブな学習素材の提供、という3点の特徴がある。

まず、1点目の多様なコースの開講については、2016年8月現在、「みなと」では、教科書『まるごと日本のことばと文化』とそれに付随するウェブサイト「まるごと+（まるごとプラス）」を活用した日本語と日本文化を総合的に学べるコース、ウェブサイト「アニメ・マンガの日本語」のコンテンツを利用したアニメ



図2 日本語コース一覧を示した画面

・マンガの挨拶が学べるコース、スマートフォンアプリ「Hiragana Memory Hint / Katakana Memory Hint」を用いたひらがな、またはカタカナを覚えるための文字コースという国際交流

基金がこれまでに開発してきたリソースを効果的に用いたコースが開講されている。また、今後は教材やウェブサイトだけに留まらず、国際交流基金が国内外で行っている研修や日本語講座の内容をオンラインコース化する計画もあり、多種多様なテーマのコースが開講される予定である。

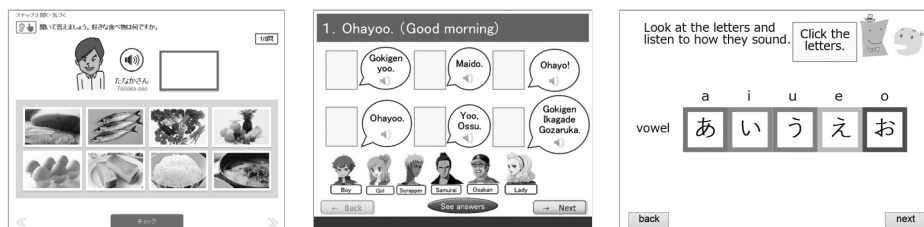


図3 「みなと」で開講されている日本語コースの画面例

次に2点目の「学びの選択」については、「みなと」の日本語コースではコースごとにレベル、コースタイプ、学習カテゴリ、学習期間、解説言語が設定されており、個人のニーズや学習スタイルに合わせてコースが選べるようになっている。レベルは、JF 日本語教育スタンダードの指標に基づき、A1～C2レベルで示されている⁽¹⁾。コースタイプは、スライド教材などで自学自習する「自習コース」と、教師による課題添削やライブレッスンが加わる「教師サポート付きコース」の2種類が設けられている。学習カテゴリについてはコースごとに「総合」、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」、「文法」、「語彙」、「かな」、「漢字」、「文化・社会」の各カテゴリが表示されており、コースによっては複数の学習カテゴリを含んでいるものもある。学習期間は1日で終了するものから数か月のもまで様々で、解説言語は2016年8月現在、英語のみであるが、他の言語についても今後展開されていく予定である。ユーザーは、これらの情報から、自分の日本語能力や学習スタイルなどに合わせて、自分に最適なコースを選んで受講することで「学びの選択」を実現することができるようになっている。

そして、3点目の「インタラクティブな学習素材の提供」については、「みなと」の日本語コースはスライド教材、クイズ、動画、テスト、掲示板を組み合わせる各コースが構成されており、教師サポート付きのコースではライブレッスンと課題を追加することもできる。スライド教材では、別途eラーニング作成ソフトを使用することで、ユーザーがマウスを使用して音声とイラストのマッチング問題に答えることができたり、ライブレッスンでは教師とコース受講者がオンライン上で一堂に会し、これまでに学んだ日本語を使って会話をし、直接、交流する機会を持つことができる。このように、能動的に学習を行ってもらえる学習素材を提供するだけでなく、地理的な制



図4 ライブレッスン風景

約を持つ学習者にはクラス環境を提供することができる点も、「みなと」の日本語コースの大きな特徴である。

3.1.2 マイページでの学習管理

自律的な学習では、学習者自身による学習管理が重要である。「みなと」では、学習管理機能を有するマイページを利用することで各々による学習の管理をしやすくしている。

マイページのコース一覧画面では、受講歴があるコースが「受講中のコース」と「過去のコース」に分類して表示される。受講中のコースについてはここから



図5 マイページ (日本語コース)

各教材にアクセスし、学習を開始することができるほか、本ページでは受講中のコース、過去のコースを問わず、各コースの学習の進捗状況 (既習/未習、成績など) を確認することもできるため、過去の学習を振り返ることもできる。

また、コース終了時には、教師からのコメントや評価点などが記された「学習の記録」が発行され、修了要件を満たしていれば、修了証とコースバッジも受け取ることができる。マイページでは、その記録が一目で分かるよう、コース終了後にはマイページの当該のコース欄に「学習の記録」「修了証」

のボタンが表示されるようになっていいる。そして、自らの学習の成果を振り返るだけでなく、必要に応じてダウンロードしたり、プリントアウトしたりして保存することもできるようになっている。



図6 修了証



図7 学習の記録 (成績表)

3.2 コミュニティ

「コミュニティ」はユーザーが日本語学習から離れ、使用言語も日本語に限られることなく、年齢、文化、背景などの垣根を超え、日本を共通のテーマ（日本のマンガ、日本のドラマ、日本料理、日本の観光地、日本の伝統文化、日本語の学習方法など）に、同じ趣味を持つ仲間と交流し、つながり合える場である。

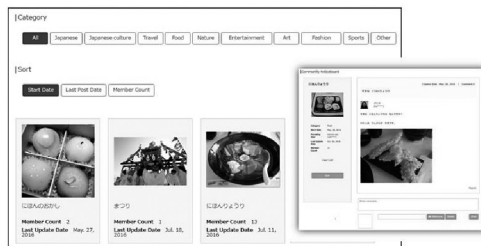


図8 コミュニティー一覧と掲示板

コミュニティにはユーザーであれば自由に参加することができ、自分が参加しているコミュニティでは掲示板内のやり取りを自由に閲覧し、コメントや画像を投稿することもできる。また、コミュニティに参加すると、同じコミュニティに参加しているユーザーの一覧にアクセスことができ、自分以外のユーザーのプロフィールを閲覧することもできるため、ニックネームなどの基本情報だけでなく、自分と同じ趣味を持つ人がどのようなコースを学んでいるかなどを知ることがもできる。さらに、特定の相手と個別にメッセージのやり取りを行ったり、興味のあるコミュニティがない場合は、自分自身で自由に新しいコミュニティを立ち上げたりして、新たな仲間と交流することも可能である。

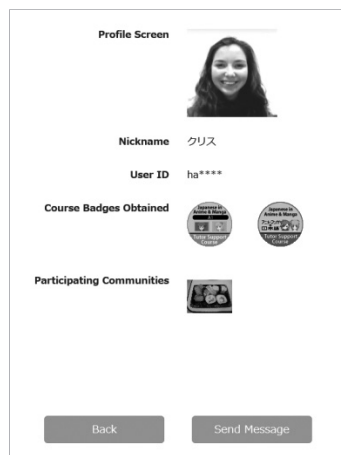


図9 プロフィール画面

3.3 日本語学習サイト&アプリ

「みなと」には国際交流基金が開発した日本語学習サイトやスマートフォン用の日本語学習アプリをまとめて紹介する専用のページ「JF 日本語学習サイト&アプリ」が設けられている。これは気軽に色々な日本語学習サイトを見てみたいというユーザーや、無料のアプリをダウンロードしたい人、あるいは、「みなと」でのコース受講をきっかけに、興味を持ったテーマのサイトやアプリをもっとよく知りたいというユーザーなど、日本語学習の多様なニーズに応えるためである。このように「JF 日本語学習サイト&アプリ」では、国際交流基金が開発してきたeラーニングリソースをまとめて提示することで、多くのユーザーに「みなと」以外のリソースを周知し、より活用してもらえようようにすることを目指している。



図10 「JF 日本語学習サイト&アプリ」のコンテンツ

4. 今後の展望

「みなと」は世界中のユーザーのニーズに可能な限り応えられるよう、今後は更に選択肢の拡大を行っていく予定である。関西国際センターでは、現在、そのための多言語化と海外拠点によるコース運営の準備が進められている。

多言語化については、2017年度中には複数言語による「みなと」の画面表示と、複数の解説言語によるコースの提供が開始される予定である。2016年7月公開時、「みなと」の表示言語は日本語と英語の2言語のみ、コースの解説言語も英語の1言語のみであったが、多言語化が行われることにより、日本語や英語で学習を進めることに抵抗を抱いていた更に多くの潜在的学習者が「みなと」を訪れ、日本語を学習したり世界中の仲間と交流したりすることを期待している。

また、コースそのものの選択肢の充実も重要であると考える。「みなと」公開時の日本語コースは4つであったが、こちらについても拡大の予定で、各海外拠点が主体となりコース運営を行っていく計画が進められている。このような計画を実行していくことで、今後はコースが追加されていくだけでなく、関西国際センターだけでは補うことができない地域ごとの日本語学習への期待とニーズ、各国・各地域の学習指導要綱に即したコンテンツの提供、時差への配慮、現地語によるコース運営など、様々な多様性に応えることができるのではないかと期待を寄せている。

5. おわりに

本報告では「みなと」のコンセプト、および「みなと」を構成する「日本語コース」、「コミュニティ」、「JF 日本語学習サイト&アプリ」について、それぞれの概要を紹介した。今後

「JF にほんご eラーニング みなと」の構成と今後の展望

は、「みなと」をより多くの人たちに届けられる方法を模索し続けるとともに、登録ユーザーや日本語既習者のニーズを把握しつつ、日本語コースを更に充実させていく予定である。

「みなと」で日本語学習の機会と選択肢を得たすべてのユーザーにとって、「みなと」が好奇心や向上心を満たす人生における長い学びの場となることを願っている。

〔注〕

^①2016年8月現在、「みなと」で開講されているコースはすべてA1レベルである。他のレベルについても順次、増えていく予定である。

〔参考文献〕

国際交流基金（2013）『海外の日本語教育の現状 2012年度日本語教育機関調査より』くろしお出版

